

## (1) 開会

## 1. 開会

### 冒頭挨拶・趣旨説明

文部科学省高等局医学教育課長 袖山 禎之

先生方、おはようございます。文部科学省医学教育課長の袖山でございます。

本日は、大変お暑い中、また、大変お忙しい中、全国から各大学の学長先生はじめ、医学部長、歯学部長、教務委員長など多数の先生方にお越し頂きまことにありがとうございます。昨日の医学教育振興財団主催の指導者フォーラムに続きまして2日連続の御参加になる先生もいらっしゃるかと思います。大変お忙しい中、どうもありがとうございます。また、皆様方におかれましては日頃より医学教育の改善・充実に多大なる御尽力を賜っていることに対しましてこの場をお借りいたしまして御礼を申し上げたいと存じます。

また、御来賓の先生方をはじめといたします協力者の皆様、本ワークショップに御協力を頂いております関係団体の皆様方、会場を利用させていただいております東京慈恵会医科大学の教職員の皆様にもこの場をお借りいたしまして御礼を申し上げたいと存じます。

このワークショップでございますけれども、平成13年に協力者会議でおまとめいただきました「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について」を契機といたします医学・歯学教育改革の確実な定着を図るために、各医科大学（医学部）や歯科大学（歯学部）の教育指導者が直面する具体的な課題につきまして議論を行い、これをもちまして各大学が主体的かつ組織的に教育内容・方法の改善を図っていただくことに資するというを目的として毎年開催しているものでございまして、今年で14日目の開催となるものでございます。

さて、今回でございますけれども、医学教育、歯科教育におきましては、これまでも協力者会議の提言等に基づきましてモデル・コア・カリキュラムの策定、また、共用試験の実施、診療参加型臨床実習の充実等が行われてまいりました。大きな一定の方向性というものを共有しながら大きく改善を図ってまいったところでございます。しかしながら、高齢化やグローバル化などをはじめとする社会情勢の変化により医療のニーズが大きく変わりつつある状況下におきましては、こういった社会の変化というものに対応しながらこれまでの取組を持続し、また、改善を図っていくことが必要であると思っております。また、こういった取組とともに、各大学の理念、あるいは、特徴、地域の医療ニーズ等々に対応いたしまして各大学の独自の教育研究の取組を充実することも必要であるわけでございます。特に医学分野におきましては、2023年問題と言われておりますけれども、平成22年9月の米国ECFMGの通告を一つきっかけといたしまして、現在、医学教育・歯学教育に対する分野別認証評価の導入に向けて取組を進めていただいております。こうした取組につきましては、ともすると一過性のクリアすべき課題であるとも捉えられがちということもあるわけでございますけれども、我々といたしましてはむしろ、こういった基準、あ

るいは評価というものを契機といたしまして我が国の医学教育・歯学教育が国際的にも高い水準にあるということを示していくとともに、グローバル化等の中でしっかりと国際的な評価というものを得る一つのきっかけといたしたいと思っておりますし、また、この分野別の評価というものを一定期間ごとに各大学において実施をしていく、こういった取組そのものが医学教育・歯学教育の質を向上、また、その継続を図っていく PDCA サイクルの大きな原動力になるものと考えているところでございまして、是非こういった観点からの取組というものを恒常的なものとして確立し、また、大学ごとの多様で特色ある教育の展開に資するという事で発展をさせていただければと思っている次第でございませぬ。

こういった認証評価の導入を含む分野別評価質保証といった動きということは医学・歯学教育、医療系の教育に限った話ではございませぬ。平成 25 年 6 月に閣議決定をされました第 2 期教育振興基本計画におきまして、高度専門人材の育成に向けまして、分野別質保証の構築に向けた取組を推進するとされているところでございまして、こうした大きな動きにもかなったものであると考えております。そういった観点からも、医学・歯学教育が他に先駆けてこのような質保証への取組を実施するという事については大変大きな意義があると考えている次第でございませぬ。

是非このような背景を御認識いただきまして、本年は昨年の議論を踏まえて、医科については分野別認証評価の実施に向けた課題につきまして、また、歯科につきましては卒前教育における到達目標の設定及び対応する教育カリキュラムや教育評価改善の在り方ということにつきまして積極的な御議論を賜りたいと考えている次第でございませぬ。

なお、設定されたテーマにつきまして御議論いただくことはもちろんでございませぬけれども、医学・歯学教育改革に携わる各大学の先生方がお集まりいただく機会でもございませぬので、この機会を利用いたしまして各大学の状況につきましても是非情報交換いただき、多くの成果を持ち帰っていただきまして、各大学の教育改善に努めていただければと思っております。

本日は大変長時間の会議になるところでございませぬ。また、大変暑い状況でございませぬけれども、是非率直な御意見交換と建設的な取りまとめというものをお願いいたしまして、私からの挨拶・趣旨説明とさせていただきたいと思っております。本日は一日よろしくお願ひいたします。

## 来賓挨拶

全国医学部長病院長会議会長 荒川 哲男氏

先生方、おはようございます。大阪市立大学の荒川でございます。この5月から別所前会長の跡を継ぎまして全国医学部長病院長会議の会長を拝命いたしました。先だちの基本方針にのっとり、医学・医療の質の向上に向けて先生方と一丸となってまい進してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日のワークショップですけど、私もこのようなワークショップに六、七年前に参加いたしました。そのころは、ちょっと不謹慎かもしれませんが、どちらかというとも早くスニークアウトしたいなというふうに思っておりまして、今猛反省をしているところです。といいますのは、10年前に卒後臨床研修制度が義務化されましたが、そういったことが非常に我々の悪夢になっていると思います。そのことによって地域偏在とか、あるいは診療科の偏在が起こってきたという意見もありますし、あるいは、学生が2年間延長になったような感じもいたします。これは厚生労働省だけの責任ではなくて、やはり我々が、いや私だけかもしれませんが、怠慢があったんじゃないかと思います。それといいますのも、やはり医学部の6年間の間にしっかりと臨床教育をして、卒業したときにはある程度基本的な臨床能力を備えた学生を送り出すべきであったと思うんですね。それが完全にはできていなかったことが研修の義務化という事態を招いたんじゃないかというふうに思います。

ですので、きょうのテーマはまさに学部生の中に臨床能力をしっかりと身に付けさせて質の保証をしようというところにあるかと思っておりますので、それがかなえば、その後に来る卒後臨床研修に関しましてもシームレスな形でより質の高い卒後研修に入れるんじゃないかと思っておりますし、そうすることによって医療の質も高まります。以前のストレート研修がよかったとは言いませんけれども、総合診療も含めて、専門に特化した能力の高い医師を早く作っていくということが非常に大事ではないかと思っております。アメリカでは高校卒業から8年かかるわけですね。メディカルスクール制度ですので。ですから、アメリカでもこれはちょっと長過ぎるという意見も出ているぐらいなので、是非きょう、私も勉強させていただきたいと思っております。学部生の中にいかに臨床教育の質を高めるかということが全国医学部長病院長会議でも大きなテーマの一つになっていますので、皆さんと一緒に考え、実行してまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

## 来賓挨拶

厚生労働省医政局医事課臨床研修推進室長 田村 真一氏

皆さん、おはようございます。ただいま御紹介にあずかりました厚生労働省医師臨床研修推進室長の田村でございます。

本日お集まりの先生方におかれましては、日頃から医学・歯学教育、それから、臨床研修の充実・推進に御尽力を頂き、この場をかりて心より御礼を申し上げたいと思います。

さて、医師の養成に当たりましては、臨床実習を含めた卒前の教育、それから、国家試験、臨床研修、そして、その後の専門研修と、先ほど会長からも御指摘がございましたが、そこをシームレスに、連続性に十分に配慮して、全体として質の向上を図っていくことが重要ということが指摘されているところでございます。

医師臨床研修制度につきましては、平成16年度に必修化で導入されて以降10年が経過し、昨年12月の医師臨床研修部会の報告を踏まえまして、平成27年度からも2回目の見直しが行われるところでございますが、そこをシームレスに配慮していこうということで、到達目標とか、評価の在り方につきまして、今回の見直しにはちょっと間に合わなかったのをごさいますけれども、次回、平成32年度の見直しに向けて重要な検討事項とされまして、それについては速やかに検討を始めていこうとしているところでございます。その際には人口動態とか、疾病構造の変化とか、いろんな医療の変化も対応いたしますが、やはり卒前教育とか、新たな専門研修が始まってくると、そういったところにも配慮して医師養成全体の動向に配慮して検討していこうという形になっているところでございます。

また、医師国家試験につきましても、おおむね4年ごとに開催されている医師国家試験の改善検討部会が先月から始まっておりまして、現在共用試験の成績評価の標準化などが始まりつつあるところでございますので、その卒前教育の状況も踏まえながら検討がなされていくといったような予定になっているところでございます。

卒前教育、臨床実習というものがこのように卒後の研修とか医師養成全体の質の向上に大変大きな影響を与えるところでございますので、本ワークショップを通じてその充実がますます進んでいくということを期待したいと思っております。

きょうのワークショップが実り多きものになりますことを期待いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。